

## 【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 東海財務局長

【提出日】 2022年11月7日

【四半期会計期間】 第94期第2四半期(自 2022年7月1日 至 2022年9月30日)

【会社名】 中央可鍛工業株式会社

【英訳名】 CHUO MALLEABLE IRON CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 武 山 豊

【本店の所在の場所】 名古屋市中川区富川町三丁目1番地の1  
(注)上記は登記上の本店所在地であり、実際の本店業務は下記の  
本社事務所及び日進工場で行っております。

【電話番号】 <052>361-3141

【事務連絡者氏名】 常務執行役員 加 藤 洋 平

【最寄りの連絡場所】 愛知県日進市浅田平子一丁目300番地  
中央可鍛工業株式会社 本社事務所及び日進工場

【電話番号】 <052>805-8600

【事務連絡者氏名】 常務執行役員 加 藤 洋 平

【縦覧に供する場所】 株式会社名古屋証券取引所  
(名古屋市中区栄三丁目8番20号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第93期 第2四半期 連結累計期間	第94期 第2四半期 連結累計期間	第93期
会計期間		自 2021年4月1日 至 2021年9月30日	自 2022年4月1日 至 2022年9月30日	自 2021年4月1日 至 2022年3月31日
売上高	(千円)	16,341,212	16,098,395	33,195,383
経常利益又は経常損失( )	(千円)	816,009	114,023	1,081,609
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 又は親会社株主に帰属する 四半期純損失( )	(千円)	574,312	223,809	784,317
四半期包括利益又は包括利益	(千円)	1,404,017	1,031,096	2,377,592
純資産額	(千円)	22,840,457	24,676,901	23,721,670
総資産額	(千円)	38,077,820	39,157,217	39,528,617
1株当たり四半期(当期)純利益 又は1株当たり四半期純損失( )	(円)	37.49	14.55	51.14
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益	(円)	-	-	-
自己資本比率	(%)	58.5	61.6	58.6
営業活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	1,877,288	494,762	2,462,289
投資活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	761,511	964,173	1,417,454
財務活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	2,657,635	568,251	3,286,027
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(千円)	4,650,573	3,158,484	3,995,900

回次		第93期 第2四半期 連結会計期間	第94期 第2四半期 連結会計期間
会計期間		自 2021年7月1日 至 2021年9月30日	自 2022年7月1日 至 2022年9月30日
1株当たり四半期純利益 又は1株当たり四半期純損失( )	(円)	3.33	7.98

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動もありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結会計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、経営者が連結会社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性があるとして認識している主要なリスクの発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

### 2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

#### (1) 財政状態及び経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間における世界経済は、世界的なインフレ状況の中、長期化するロシア・ウクライナ情勢や中国の景気減速等により、引き続き予断が許せない状況であります。

わが国の経済におきましても、新型コロナウイルス新規感染者数の減少から内需の持ち直しがみられ、景気の底堅さが示されているものの、原材料高・円安進行等のインフレにより、先行きは不透明な状況であります。

また、当社グループの主要取引先であります自動車業界におきましては、世界的な半導体不足等の影響に伴う国内生産減少により、依然として厳しい状況であります。

このような環境の下、当第2四半期連結累計期間の売上高は160億98百万円（前年同期比1.4%減少）、営業損失は5億16百万円（前年同期は営業利益2億96百万円）、経常損失は1億14百万円（前年同期は経常利益8億16百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失は2億23百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純利益5億74百万円）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

#### 可鍛事業

当セグメントにおきましては、中国のロックダウン、国内自動車生産の減少や原材料及びエネルギー価格高騰により、売上高は157億23百万円（前年同期比1.2%減少）、セグメント利益（営業利益）は89百万円（前年同期比88.4%減少）となりました。

#### 金属家具事業

当セグメントにおきましては、新商品開発や新たな顧客獲得に向け積極的な営業活動を推進いたしました。円安による海外輸入部品の高騰により、売上高は3億74百万円（前年同期比8.8%減少）、セグメント損失（営業損失）は56百万円（前年同期はセグメント損失（営業損失）18百万円）となりました。

当第2四半期連結会計期間の総資産は391億57百万円となり、前連結会計年度末に比べ3億71百万円減少いたしました。主な要因は、現金及び預金が減少したことなどにより流動資産が10億35百万円減少し、投資有価証券が減少したものの、関係会社出資金が増加したことなどにより固定資産が6億64百万円増加したことによるものであります。

負債の部は、前連結会計年度末に比べ13億26百万円減少し、144億80百万円となりました。主な要因は、支払手形及び買掛金やその他（設備関係未払金）が減少したことなどにより流動負債が8億77百万円減少し、長期借入金が増加したことなどにより固定負債が4億49百万円減少したことによるものであります。

純資産の部は、前連結会計年度末に比べ9億55百万円増加し、246億76百万円となりました。主な要因は、為替換算調整勘定が増加したことなどによるものであります。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物(以下、「資金」という。)は、前連結会計年度末より8億37百万円減少の31億58百万円(前期比20.9%減少)となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは、減価償却費11億47百万円、仕入債務の減少8億34百万円などにより、4億94百万円の収入(前年同期は18億77百万円の収入)となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出9億20百万円などにより、9億64百万円の支出(前年同期は7億61百万円の支出)となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入金の返済による支出3億70百万円などにより、5億68百万円の支出(前年同期は26億57百万円の支出)となりました。

(3) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発費の総額は26百万円であります。なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

### 3 【経営上の重要な契約等】

当社は、運転資金の効率的な調達を目的として、引き続き2022年9月に取引銀行2行と10億円のコミットメントライン契約を締結しております。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	36,000,000
計	36,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2022年9月30日)	提出日現在発行数(株) (2022年11月7日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	16,020,300	16,020,300	名古屋証券取引所 (メイン市場)	単元株式数は100株 であります。
計	16,020,300	16,020,300		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2022年7月1日～ 2022年9月30日		16,020,300		1,161,000		560,420

## (5) 【大株主の状況】

2022年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 (自己株式を 除く。)の 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
トヨタ自動車株式会社	豊田市トヨタ町1番地	792	5.12
株式会社三菱UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2丁目7番1号	660	4.27
第一生命保険株式会社 (常任代理人株式会社日本カスト ディ銀行)	東京都千代田区有楽町1丁目13番地1号 (東京都中央区晴海1丁目8番12号)	660	4.27
CMC協力会持株会	日進市浅田平子一丁目300番地	626	4.06
株式会社豊田自動織機	刈谷市豊田町2丁目1	620	4.01
株式会社三井住友銀行	東京都千代田区丸の内1丁目1番2号	600	3.88
新東工業株式会社	名古屋市中村区名駅3丁目28番12号	460	2.97
あいおいニッセイ同和損害保険 株式会社 (常任代理人日本マスタートラス ト信託銀行株式会社)	東京都渋谷区恵比寿1丁目28番1号 (東京都港区浜松町2丁目11番3号)	455	2.94
中央可鍛持株会	日進市浅田平子一丁目300番地	443	2.87
株式会社日本カストディ銀行 (信託口4)	東京都中央区晴海1丁目8番12号	440	2.84
計		5,758	37.29

(注) 1 上記のほか当社所有の自己株式581千株があります。

2 上記の所有株式数のうち、信託業務に係る株式数は、次のとおりであります。

株式会社日本カストディ銀行(信託口4) 440千株

## (6) 【議決権の状況】

## 【発行済株式】

2022年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 581,300		
	(相互保有株式) 普通株式 41,300		
完全議決権株式(その他)	普通株式 15,392,300	153,923	
単元未満株式	普通株式 5,400		
発行済株式総数	16,020,300		
総株主の議決権		153,923	

## 【自己株式等】

2022年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 中央可鍛工業株式会社	名古屋市中川区 富川町三丁目1番地の1	581,300		581,300	3.62
(相互保有株式) 武山鑄造株式会社	名古屋市中川区 清川町三丁目1番地	41,300		41,300	0.25
計		622,600		622,600	3.87

## 2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(2022年7月1日から2022年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(2022年4月1日から2022年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、仰星監査法人による四半期レビューを受けております。



## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	4,263,850	3,457,209
受取手形及び売掛金	5,698,802	5,687,560
電子記録債権	1,570,443	1,464,899
有価証券	29,982	-
商品及び製品	1,223,747	1,177,882
仕掛品	902,969	857,989
原材料及び貯蔵品	976,212	1,036,688
その他	436,823	381,104
貸倒引当金	3,908	-
流動資産合計	15,098,923	14,063,334
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	3,294,078	3,290,032
機械装置及び運搬具（純額）	5,686,137	5,835,070
工具、器具及び備品（純額）	731,221	773,730
その他（純額）	4,447,890	4,050,169
有形固定資産合計	14,159,327	13,949,003
無形固定資産	60,924	55,249
投資その他の資産		
関係会社出資金	6,133,085	7,232,863
その他	4,079,556	3,859,966
貸倒引当金	3,200	3,200
投資その他の資産合計	10,209,442	11,089,630
固定資産合計	24,429,693	25,093,883
資産合計	39,528,617	39,157,217

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,236,399	2,783,797
電子記録債務	2,658,295	2,413,598
1年内返済予定の長期借入金	<sup>2</sup> 740,426	<sup>2</sup> 735,391
未払法人税等	50,035	48,975
賞与引当金	349,407	350,586
その他	2,080,240	1,905,443
流動負債合計	9,114,805	8,237,793
固定負債		
長期借入金	<sup>2</sup> 3,549,629	<sup>2</sup> 3,184,451
役員退職慰労引当金	43,726	39,809
環境対策引当金	15,701	11,899
退職給付に係る負債	110,775	117,087
その他	2,972,309	2,889,275
固定負債合計	6,692,142	6,242,523
負債合計	15,806,947	14,480,316
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,161,000	1,161,000
資本剰余金	729,819	732,847
利益剰余金	18,028,608	17,712,436
自己株式	222,336	207,330
株主資本合計	19,697,090	19,398,953
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,182,157	988,134
繰延ヘッジ損益	337	1,144
為替換算調整勘定	1,989,228	3,483,568
退職給付に係る調整累計額	295,148	261,164
その他の包括利益累計額合計	3,466,871	4,734,011
非支配株主持分	557,707	543,936
純資産合計	23,721,670	24,676,901
負債純資産合計	39,528,617	39,157,217

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年9月30日)
売上高	16,341,212	16,098,395
売上原価	14,755,529	15,315,326
売上総利益	1,585,683	783,069
販売費及び一般管理費	1 1,288,909	1 1,299,239
営業利益又は営業損失( )	296,773	516,169
営業外収益		
受取利息	7,107	6,910
受取配当金	31,831	34,541
持分法による投資利益	349,544	333,446
その他	161,581	167,552
営業外収益合計	550,064	542,451
営業外費用		
支払利息	23,443	20,008
為替差損	2,700	107,590
その他	4,684	12,705
営業外費用合計	30,828	140,304
経常利益又は経常損失( )	816,009	114,023
特別利益		
助成金収入	2 5,781	2 39,526
特別利益合計	5,781	39,526
特別損失		
固定資産除却損	2,846	2,409
新型コロナウイルス感染症による損失	3 46,011	-
特別損失合計	48,858	2,409
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失( )	772,932	76,906
法人税、住民税及び事業税	87,346	18,368
法人税等調整額	118,651	137,996
法人税等合計	205,998	156,364
四半期純利益又は四半期純損失( )	566,933	233,271
非支配株主に帰属する四半期純損失( )	7,378	9,462
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失( )	574,312	223,809

## 【四半期連結包括利益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失( )	566,933	233,271
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	122,982	197,395
繰延ヘッジ損益	318	1,407
為替換算調整勘定	364,228	727,793
退職給付に係る調整額	17,582	33,983
持分法適用会社に対する持分相当額	367,136	766,546
その他の包括利益合計	837,083	1,264,368
四半期包括利益	1,404,017	1,031,096
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,411,630	1,043,330
非支配株主に係る四半期包括利益	7,613	12,233

## (3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失( )	772,932	76,906
減価償却費	1,309,987	1,147,510
退職給付に係る負債の増減額( は減少)	2,506	6,311
退職給付に係る資産の増減額( は増加)	29,190	53,446
役員退職慰労引当金の増減額( は減少)	201	3,916
賞与引当金の増減額( は減少)	13,765	1,179
貸倒引当金の増減額( は減少)	66	3,908
受取利息及び受取配当金	38,938	41,452
支払利息	23,443	20,008
固定資産除却損	2,846	2,409
持分法による投資損益( は益)	349,544	333,446
売上債権の増減額( は増加)	1,009,157	326,212
棚卸資産の増減額( は増加)	521,470	140,114
仕入債務の増減額( は減少)	80,000	834,840
その他	355,879	178,233
小計	1,919,348	474,062
利息及び配当金の受取額	38,938	41,452
利息の支払額	23,431	19,996
法人税等の支払額	85,916	14,283
法人税等の還付額	28,349	13,528
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,877,288	494,762
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	555,603	920,038
その他	205,908	44,134
投資活動によるキャッシュ・フロー	761,511	964,173
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額( は減少)	2,000,000	-
長期借入金の返済による支出	433,023	370,213
配当金の支払額	92,091	92,255
その他	132,520	105,783
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,657,635	568,251
現金及び現金同等物に係る換算差額	92,277	200,246
現金及び現金同等物の増減額( は減少)	1,449,580	837,415
現金及び現金同等物の期首残高	6,100,153	3,995,900
現金及び現金同等物の四半期末残高	1 4,650,573	1 3,158,484

【注記事項】

<p>当第 2 四半期連結累計期間 (自 2022年 4 月 1 日 至 2022年 9 月30日)</p>
<p>(会計方針の変更) (時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用) 「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年 6 月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を第 1 四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2 項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。</p>

(四半期連結貸借対照表関係)

1 当座貸越契約及びコミットメントライン

当社グループは、運転資金の効率的な調達を目的として、9 取引金融機関と当座貸越契約及びコミットメントライン契約を締結しております。これらの契約に基づく当四半期連結会計期間末の借入未実行残高は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2022年 3 月31日)	当第 2 四半期連結会計期間 (2022年 9 月30日)
当座貸越極度額及び コミットメントライン契約の総額	5,850,000千円	5,850,000千円
借入実行残高	-	-
差引額	5,850,000	5,850,000

2 財務制限条項等

(コミットメントライン契約)

当社のコミットメントライン契約には、以下の財務制限条項が付されております。

- (1) 借入人は各事業年度末日における連結貸借対照表における純資産の部の合計金額を直近の事業年度末日における連結貸借対照表における純資産の部の合計金額の75%以上を維持する。

(シンジケートローン契約)

- (1) 当社のシンジケートローン契約には、以下の財務制限条項が付されております。

本契約締結日又はそれ以降に終了する借入人の各年度の決算期の末日における借入人の連結の貸借対照表における純資産の部の金額が、当該決算期の直前の決算期の末日又は2017年 3 月に終了する決算期の末日における借入人の連結の貸借対照表における純資産の部の金額のいずれか大きい方の75%の金額以上であること。

2020年 3 月以降に終了する借入人の各年度の決算期に係る借入人の連結の損益計算書上の経常損益に関して、それぞれ 2 期連続して経常損失を計上しないこと。なお、2019年 3 月に終了する決算期は、ここでいう「2 期連続」の対象に含めないものとする。

(四半期連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
荷造運搬費	439,801千円	379,064千円
給与諸手当	261,654	315,174
賞与引当金繰入額	44,649	53,716
退職給付費用	7,727	5,642
役員退職慰労引当金繰入額	2,488	3,623

2 助成金収入

前第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

新型コロナウイルス感染症にかかる雇用調整助成金等5,781千円を計上しております。

当第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

新型コロナウイルス感染症にかかる雇用調整助成金等39,526千円を計上しております。

3 新型コロナウイルス感染症による損失

前第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

休業中に発生した人件費、減価償却費等の固定費等46,011千円を計上しております。

当第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
現金及び預金	5,045,003千円	3,457,209千円
預入期間が3ヶ月を超える 定期預金	394,430	298,725
有価証券勘定	30,021	-
取得日から償還日までの期間が 3ヶ月を超える債券等	30,021	-
現金及び現金同等物	4,650,573	3,158,484

## (株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

## 1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2021年6月23日 定時株主総会	普通株式	92,068	6.0	2021年3月31日	2021年6月24日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日  
後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2021年11月5日 取締役会	普通株式	92,362	6.0	2021年9月30日	2021年12月6日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

## 1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年6月24日 定時株主総会	普通株式	92,362	6.0	2022年3月31日	2022年6月27日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日  
後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年11月7日 取締役会	普通株式	92,633	6.0	2022年9月30日	2022年12月6日	利益剰余金



(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	可鍛事業	金属家具事業	計		
売上高					
顧客との契約から生じる収益	15,929,860	411,352	16,341,212	-	16,341,212
外部顧客への売上高	15,929,860	411,352	16,341,212	-	16,341,212
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	-	-	-
計	15,929,860	411,352	16,341,212	-	16,341,212
セグメント利益又は損失( )	773,813	18,894	754,919	458,145	296,773

(注) 1 セグメント利益又は損失( )の調整額 458,145千円は、各報告セグメントに配賦していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失( )は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	可鍛事業	金属家具事業	計		
売上高					
顧客との契約から生じる収益	15,723,580	374,815	16,098,395	-	16,098,395
外部顧客への売上高	15,723,580	374,815	16,098,395	-	16,098,395
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	-	-	-
計	15,723,580	374,815	16,098,395	-	16,098,395
セグメント利益又は損失( )	89,224	56,971	32,252	548,422	516,169

(注) 1 セグメント利益又は損失( )の調整額 548,422千円は、各報告セグメントに配賦していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失( )は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

## (収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記事項(セグメント情報等)」に記載のとおりであります。

## (1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期純損失及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
1株当たり四半期純利益又は 1株当たり四半期純損失( )	37円49銭	14円55銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益又は 親会社株主に帰属する四半期純損失( )(千円)	574,312	223,809
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益又は 普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純損失( )(千円)	574,312	223,809
普通株式の期中平均株式数(千株)	15,317	15,376

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## 2 【その他】

第94期(2022年4月1日から2023年3月31日まで)中間配当については、2022年11月7日開催の取締役会において、2022年9月30日の最終の株主名簿に記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

配当金の総額	92,633千円
1株当たりの金額	6円00銭
支払請求権の効力発生日及び支払開始日	2022年12月6日

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

2022年11月7日

中央可鍛工業株式会社  
取締役会 御中

仰星監査法人

名古屋事務所

指定社員  
業務執行社員

公認会計士 小 川 薫

指定社員  
業務執行社員

公認会計士 北 川 裕 和

### 監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている中央可鍛工業株式会社の2022年4月1日から2023年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2022年7月1日から2022年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2022年4月1日から2022年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、中央可鍛工業株式会社及び連結子会社の2022年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

### 監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

#### 四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1. 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。  
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。